

最高の教育を世界の果てまで



 e-Education

ANNUAL REPORT

2021

2021.04-2022.03





Mission

最高の教育を世界の果てまで
Best Education to Every Corner of the World

Vision

人生に誇りを、社会には思いやりを
A Life with Dignity, a Society with Compassion

代表メッセージ

“Nothing is impossible”

2021年は、世界中で教育に大きな遅れが出た、そんな1年だったのではないのでしょうか？

例えば、バングラデシュは世界で最もコロナの影響で学びの遅れが生じた国と言われており、ユネスコのデータによれば、バングラデシュの学校休校期間は世界で一番長く(2021年11月末時点)、大学受験も4回延期され、最終的に1年以上の遅れが出ました。

度重なる受験延期に何度も心おられそうになる状況下でも、「一緒に頑張ろう！」と受験生を励まし続け、1年越しに開かれた大学受験では、34名がダッカ大学に合格し、150名以上が難関国公立大学に合格しました。いずれも過去最大の数字です。

ミャンマーのクーデターや、フィリピンの台風被害など、目の前が真っ暗になりそうなニュースが続いた2021年でしたが、今日まで挑戦し続けられたのは、僕たちe-Educationの活動をいつも応援・協力してくださる皆さんのおかげです。
本当にありがとうございます。

これからも、みなさんの想いを力に変え、不可能はない(Nothing is impossible)ということを実証し続けていきます。

認定NPO法人e-Education
代表
三輪 開人



バングラデシュ

■150人以上の難関国公立大学合格者を輩出

世界的なCOVID-19感染拡大はバングラデシュの教育環境にも多大な影響を及ぼしました。

すべての教育施設の閉鎖措置が取られる状況下で、私たちは、大学受験を控えながら学校にも塾にも通えない農村部の高校生と、アルバイトができなくなったことで学費が払えず中退の危機に直面した大学生を救うため開始した「オンライン家庭教師事業」に改善を加えながら継続して支援を実施しました。

映像授業を受けられる予備校施設を農村部で運営し行ってきたこれまでの対面型の教育支援を、すべてオンライン上で提供するというのは大きな挑戦でもありましたが、オンライン化によって252人ももの高校生に支援を届ることができたと同時に、延べ20人以上の大学生にアルバイトの機会を提供することもできました。

また、大学入試は2度も延期となり生徒のメンタル面のサポートも必要でしたが、私たちは「ピンチをチャンスに」を合言葉に、受験当日のその日まで生徒をサポートし続け、ようやく2021年10月に従来より1年半遅れでのダッカ大学およびその他の大学入試が開催されました。

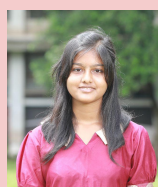
その結果、11年連続且つ過去最多となる34人のダッカ大学合格者、150人以上の難関国公立大学合格者を輩出することができました。

そして合格した生徒の内7人が、2022年1月からe-Educationのオンライン家庭教師として今度は後輩たちの挑戦と一緒にサポートしてくれています。



※右下のバーコードまたはURLからメッセージ動画をご覧ください。

<https://youtu.be/sjQUBCl-C10>



2021年
ダッカ大学合格者
グロリアさんから
感謝のメッセージ



ネパール

■JICA草の根パートナー型での映像授業の普及事業が始動

ネパールでは、都市部と山岳部の学習環境の格差が慢性的な教育課題となっています。2021年はコロナの影響で、数ヶ月に渡る断続的な学校の閉鎖、全国共通の中学修了試験の延期など、不安定な学習環境が続き、教育格差のさらなる拡大が懸念されていました。休校期間中、山岳部の学校では都市部のようなりモット学習は実施できず、指導力のある教師も不足し、学習機会そのものが非常に限られていました。コロナによって中断された学校での学習をいかに再開し、山岳部での学習環境を整えていくことが、私たちの重要な任務となりました。

学校が休校の間、私たちは現地パートナーであるKids of Kathmanduとともに、これまで作成した理数映像教材の改善に取り組み、学校再開時の支援に向けて、準備を重ねてきました。そして2021年12月、コロナで延期となっていたJICA草の根パートナー型での映像授業の普及事業が始動しました。すぐに山岳部の学校へ訪問し、生徒や先生へのアンケートや成績調査を通じて、学校教育の課題を明らかにしました。同時に、映像教材の追加作成のため、優良教師の開拓への着手や、教員向け研修の企画など、学力と指導力向上のための仕組みづくりがスタートしました。

事業開始から半年ほどが経ち、これまでに、モデル校2校へ機材を提供し映像授業が開始されました。また、指導力向上のワークショップ開催に向けた準備も進めています。





フィリピン

週末を利用し中学校修了を目指せる「オープン・ハイスクール・プログラム (OHSP)」という制度を、地元の大学生をチューターとして迎えてサポートしていましたが、コロナ禍においては政府の意向で停止となり、さらにフィリピンでは厳しい外出制限が課され、生徒たちは家から出ること出来ない為、週に1度学校から配布されるプリントでの自学自習でしか学ぶ術がありませんでした。そこで私たちはバングラデシュのオンライン家庭教師の支援モデルを参考に、学校にいけない子どもたちへの支援を開始しました。そして2021年は約60名にオンライン家庭教師の授業を届けることができ、見事1名が最難関の国立高校合格を果たし夢を叶えました。



ミャンマー

2021年2月、クーデターが発生し、これまでチン州教育局と連携しながら行ってきた教師および高校生向けの教育支援は中断となってしまいました。「これまでのように学校に通えなくなった」「未来が見えない」とこれまで関わりのあった生徒からは不安の声も聞こえてきました。そこで私たちはフィリピンのチームと連携し高校生向け「オンライン英会話」プロジェクトを始動させました。6週間という短い期間ではありましたが、毎週新しい英語表現を動画教材・ワークシートで学び、フィリピンの講師と国を超えての実践練習を行うプログラムでは「学校に行けない中、学ぶことの楽しさ、希望を捨てない事の大切さを再認識できました」と生徒たちから力強い言葉ももらいました。

高校卒業試験もミャンマーで再開する動きもあるため、今後はその支援をオンラインで強化していく予定です。

2021 Others

ルワンダ共和国

ルワンダでは教育の質が長年問題視されており、ルワンダ教育省は小学校の理数教師の指導力向上を優先課題として定められています。その為、小学校教師の育成機関である教員養成校の強化を図る中で、ICTを活用した教育モデルの期待が高まり、e-Educationの取り組みを紹介する機会が生まれました。

11月～12月にかけて、JICA(独立行政法人国際協力機構)が手がける、アフリカ・ルワンダ共和国のICTを活用した教育支援プロジェクトのカリキュラム開発専門家として代表の三輪が現地へ渡航し、ルワンダの教育省の方々へe-Educationでの取り組みを共有し、ルワンダでどのような事が可能か、共に何が出来るか等の協議をさせて頂きました。



アフガニスタン

e-Educationがフィリピンで実施していたICTを活用した数学教育支援をアフガニスタンでも活かさないか。

国際機関及びアフガニスタンを拠点に置くNGOパートナーと連携し、2020年よりアフガニスタンでの活動の在り方の模索が始まりました。

しかし2021年8月、タリバンの復権により、これまで準備を進めていたアフガニスタンの高校生向けICTを活用した数学教育支援は、休止を余儀なくされてしまいました。「今できることは何か」状況が落ち着いたときにすぐに走り出せるよう、「映像学習教材」の整備を現地の先生と共に進め、教材を完成させました。

現在は、学習機会が限られるアフガニスタンで体制が整い次第活動を再開できるよう引き続きその可能性を連携団体と協議を行っています。

ご支援者さまの声



松浦 千春さま

コロナ禍より前からSkypeを用いてオンラインによる、ことばの支援や学習支援をしていました。海外含めていろいろな実践の情報収集をする過程で、三輪さんのプレゼンテーションが目にとまり、e-Educationさんの活動を知りました。社会人になった頃から、実働で関わることは難しいけど素敵だと思う活動には寄付で関わらせていただくことを続けており、サポーターになることを決めました。

機器を含めて通信環境が整っていれば学び続けることができる環境は、子どもたちだけでなく、子育てのために、学ぶことや働くことから離れなければならなかった、若い保護者たちが改めて学ぶ機会も広げると思います。学べる人の幅も広がっていくことを期待しています。



大橋 早由里さま

サポーターになったきっかけは、団体の熱量。2019年活動報告会を通して職員・インターン・サポーターたちの熱量を感じ、一つの目標にみんなが向かっていることが感じられたからです。ニュースレターやSNSでの報告を見ていると、現地の様子を想像できるので、団体の成長も感じられて嬉しいです。

現在、オンライン講座などを提供している日本の学習塾に勤めていますが、勉強だけでなく精神面のサポートの重要性を実感するなど、教育を実践している立場として、よりe-Educationの活動に共感しています。

<これまでにご支援・協働いただいている法人さま>



公益財団法人 日本国際協力財団



助成： 国際交流基金アジアセンター
アジア・市長交流助成



みてね 基金

ご支援の方法

01 マンスリーサポーターになる

毎月1,000円のご寄付があれば、6人に「最高の授業」を届けることができます。教育機会に恵まれず、夢を諦めざるを得ない子どもたちの夢を応援する仲間になってください。



02 今回のご寄付をする

ご都合の良い時に、ご自由な金額でのご寄付いただけます。法人としてのご寄付もこちらからお申し込みいただけます。



活動計算書

経常収益	
受取寄付金	57,569,380円
受取助成金	12,055,502円
事業収益	34,646,363円
その他	236,659円
合計	104,507,904円

経常費用	
事業費	97,529,416円
人件費	33,671,038円
その他経費	63,858,378円
管理費	25,767,819円
人件費	10,485,298円
その他経費	15,282,521円
合計	123,297,235円

税引前当期正味財産増減額

-18,789,331円

法人税、住民税及び事業税

70,000円

当期正味財産増減額

-18,859,331円

前期繰越正味財産額

5,477,343円

次期繰越正味財産額

-13,381,988円



認定NPO法人e-Education

〒101-0031

東京都千代田区東神田1-2-8 赤塚ビル2階

E-Mail : info@eedu.jp HP : <https://eedu.jp>

